河智義彦先生をしのぶ

技術士(金属) 長野博夫

正月元旦に河智義彦先生が急逝されました。先生は、当協会技術士一次試験セミナー講師および日本技術士会近畿本部食品部会副会長を勤められていて、享年73歳でした。

1月4日、東京から滋賀県草津市の河智先生宅に帰られていた長女の方から電話で訃報が伝えられました。私はこの電話に一瞬耳を疑いました。と言うのは、河智先生とは2日前の去年の12月30日に技術士一次セミナー本試験基礎第4群バイオの問題の解答・解説原稿の件でお話ししたばかりだったからです。

本件に関して、12月の初め頃、先生に催促した経緯があり、その後しばらく連絡も無いままになっていました。先生は日頃約束事をしっかり予定通りこなされる方でしたので、今回はおかしいなと思いました。また、肝臓癌の治療を数年にわたり受けておられることを聞いていましたので、心配になり12月30日の電話になりました。

お電話したとき、先生は「病院での定期治療を終えて、退院したばかりです」と言われ、また、「原稿はほぼ出来上がっている」ともおっしゃっていました。

私は、先生の入退院のことをお聞きし、驚いて、「体はご無理しないで下さい。先生のペースで結構です。急ぎません。」とお話ししました。その後、1月4日、長女の方から、「父は正月元旦、孫達にお年玉を用意

ておりました。夕方、体を休めたいと言い、床に入り、そのまま亡くなりました」とお聞きしたのです。「父が死ぬ直前まで手がけていた原稿を、もし、お役に立つなら、お送りしましょうか」と言っていたきました。それから、東京の自宅に帰られ、先生の遺作になった原稿が小生に宅配便で送られてきました。先生の遺作は正に力作で、早速当協会の一次本試験の解答・解説に利用させていただきました。

思えば、河智先生とは、協会の技術士一次試験のセミナー活動を通じて長いお付き合いをさせていただきました。セミナーでのご講演、テキストや模擬試験の解答・解説の作成など、先生の勤勉さ、温厚なお人柄にひきつけられるところが多々ありました。何時もにこやかにしておられました。お亡くなりになる2日前まで、泰然自若、仕事に最後まで取り組まれました。正に生涯現役を全うされ、人間としての器の大きさ、その偉大さにただただ敬服するのみです。

当協会活動に対する先生の長年のご努力に感謝し、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

—合掌—